

京都ユネスコ

2023年（令和5年）1月号

編集・発行 京都ユネスコ協会事務局 京都市南区東九条東山王町27 元京都市立山王小学校内



日本ユネスコ協会連盟の「ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金」運動に応じて、昨年4月と5月にウクライナ難民支援の募金活動を行いました。

写真は5月29日（日）11時～12時半 四条河原町角（高島屋前）で行った時のものです。

京都外国語大学と京都外大西高等学校の学生30人と先生の協力を得て行いました。

目次

ごあいさつ	相大二郎	p 2
第78回「日本ユネスコ運動全国大会 in 木更津」への参加報告	吉田敦彦	p 3
京都ユネスコ協会芸術展2023	西川昭寛	p 4
「2022近畿ブロックユネスコ活動研究会 in 舞鶴」	江木恵璿子	p 5
第61回京都ユネスコ「自然観察展」	事務局	p 6
京都ユネスコ協会の次世代育成 SDGs 協働学習 2022 同志社小と京都文教付小の国際平和デー	江木恵璿子	p 7
「京都ユネスコ日本語教室の1周年を迎えて」	西川昭寛	p 8
花脊のチマキザサ	浅井俊子	p 9
ユネスコ英語教室ニューズレター	前田久夫	p 10
名刺交友録		p p 10、11、12
今後の活動予定	事務局	裏表紙

ごあいさつ

会長 相 大二郎

明けましておめでとうございます。

皆様には新たなお気持ちで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、去年は2月24日にロシアによるウクライナ侵攻に始まり、7月の安倍元首相に対する銃撃事件にまつわる旧統一教会問題、秋にはサッカーのワールドカップのニュース等、賑やかな一年でありました。

ロシアのウクライナ侵攻に対しては、京都ユネスコ協会でもいち早くプーチン大統領に対して愚かな戦争を即刻やめるようにという手紙を認めました。また有志による街頭募金のご協力で27万円を日本ユネスコ協会連盟にお届けすることができました。この場をお借りしてご協力いただいた方々へお礼を申し上げます。ありがとうございました。

また去年は11月5日に舞鶴商工センターを会場として「近畿ブロック活動研究会」が行われ、京都からは江木恵理子常任理事と同志社小学校の川崎久美子教諭が同志社小学校でのSDGsの取り組みについて報告がありました。

発生以来三年目を迎える新型コロナウイルスもようやく下火になったかと思えば、さらに第八波が襲ってくるというニュースであります。その様な中で今回のサッカー会場では誰一人としてマスクをしている人はおりません。日本でのスポーツ会場との違いはどこから来るのでしょうか。

年明けて今年はレストラン「キエフ」を会場にウクライナ料理を楽しみながら新年会を催します。講師はコロナのために以前から延期を繰り返してご迷惑をおかけしていた安齋育郎先生です。お楽しみください。

第 78 回日本ユネスコ運動全国大会 in 木更津への参加報告

吉田敦彦

2022 年 11 月 26 日（土）に千葉県木更津市（かずさアカデミアホール）にて、第 78 回日本ユネスコ運動全国大会が 3 年ぶりに対面で開催された。全国から約 300 人のユネスコ協会・クラブ会員が、本協会からは加藤事務局長と筆者が参加した。

宇梶剛士氏の基調講演は、アイヌ民族への差別と闘ってきた母上の人権活動を中心に、リアルな自らのライフストーリーを通して、この列島における多文化共生の見過ごされがちな課題に光を当てるものだった。小学生からの発表などを挟んで、パネルディスカッションは、渡辺木更津市長による、ダイナミックに展開する「オーガニックなまちづくり」の全体像の提示から始まった。続いて若々しい新井氏は、有機野菜の栽培と平飼い養鶏を 10 年以上続けてきた農場を舞台に 2019 年にオープンした「KURKKU FIELDS」を紹介された。「農業」「食」「アート」の 3 つのコンテンツを軸に提案するサステイナブル&パークで、3 人目の木更津社会館保育園の宮崎園長は、里山の森でどろんこになって遊び、けんかし、仲直りする子どもたちの保育を、長年のご経験に基づいて生きいきと語ってくださった。どれも、本大会のメインテーマ「誰一人とり残さない平和で持続可能な未来を目指して——オーガニックシティ木更津からの発信」に相応しいものだった。

とくに筆者は「KURKKU FIELDS」の取り組みにとっても感銘を受けた。パネルディスカッションの司会もされていた吉崎晴子さん（千葉県ユネスコ連絡協議会前会長・日ユ協連理事）に伝えたと、次の日曜日に、木更津ユネスコ協会の城戸富貴副会長のご案内で一緒に訪問することができた。現地は想像以上に広大で、家族連れでにぎわい、日本でもこんなオーガニックな多目的ファームが実現しているのだと、あらためて感じ入った。育てる・作る・食べる・循環する、といった「ひとが本質的に生きる心地よさと喜び」のなかで、暮らし方・生き方に根ざしたサステイナビリティと平和の砦を築いている木更津郊外の農場だった。宿泊施設もあって体験できるので、ぜひ皆さんも訪問される機会があればとご紹介する次第（充実した HP あり）。

付け加えれば、大会冒頭の日ユ協連の佐藤会長の挨拶も、最後の鈴木理事長の挨拶も、ウクライナ情勢とユネスコの使命に触れられていた。ロシアからの帰還者受け入れの地・舞鶴で開催された近畿ブロック大会も、平和への思いの高まりを感じた。今こそ戦後のユネスコの原点に立ち返って、平和の文化に貢献する活動に何か少しでも取り組みたい——大会で出会った仲間たちとも、折にふれそういう会話になった。明けて 2023 年は、「平和の文化とサステイナビリティ」のための一年にしたいと願っている。

京都ユネスコ協会芸術展 2023

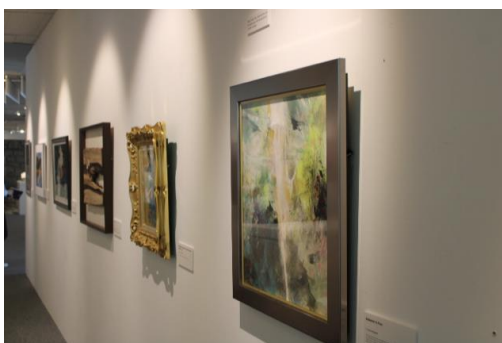
西川紹寛

京都ユネスコ協会芸術展は2019年に開催されて以降、コロナ禍の影響で開催が中断されていましたが、2023年4月1日・2日の両日、堀川御池ギャラリーにて4年ぶりに開催することになりました。開催にあたりましては日本画家であり、協会会員でもある岸上ゆか先生の指導の下に準備を進めてきています。

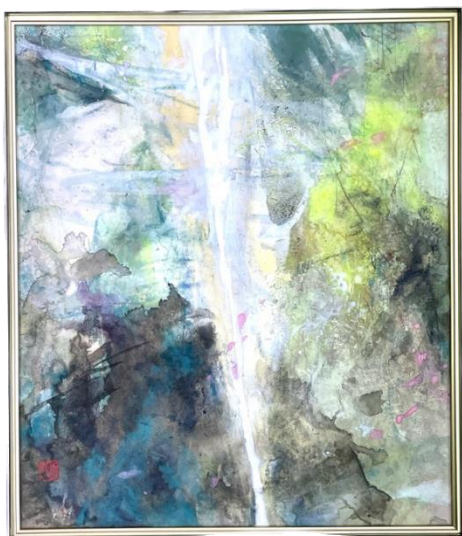
岸上先生は第52回の京都ユネスコ協会・美術工芸展まで平和をテーマとした作品を毎年出展していただいています、先生とユネスコとの関係には深いものがあります。昨年(2022)は「芸術からの平和希求」をテーマにフランスのUNESCOパリ本部内のミロホールで開催された「国際平和芸術展」(6月14日-17日、6月20日-23日)に作品を出展されました、今回の京都ユネスコ芸術展にはその作品が展示されます。



UNESCOパリ本部正面玄関



この美術展は先生にとってユネスコ活動としての特別のものであり、その感想を以下のように述べられています：「UNESCOは教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目指し、1946年に創設された国際連合の専門機関です。国際機関内での開催ということもあり、様々な国籍の方々にご高覧いただきました。



展示会場となったミロ・ホール内で各国大使などにもご来場いただき、世界に向けて日本画の魅力と自身のテーマである命の水を、今回は「水の記憶」として平和への願いを発信することが叶いました。

京都ユネスコ協会芸術展2023はテーマを「平和と文化のサステナビリティ」としながら、ユネスコスクール70周年の記念行事の一環として開催されます。皆様のご来場をお待ちしています。

「水の記憶」

2022年11月5日、舞鶴で近畿ブロックユネスコ活動研究会が開催されました。
日本ユネスコ協会連盟のビジョン「Peace for Tomorrow 広げよう平和の心」、ミッション「平和な世界の構築」と「持続可能な社会の推進」を体現すべく、テーマを以下の様に設定しての開催でした。

今、そして明日の地球社会に生きる
～つなぐ 広げる 未来のために今、何をしなければならないか～



午後からの分科会は以下の4分科会が設けられ、各会場では事例報告と研究協議が行われました。

- 第1分科会：世界寺子屋運動・識字教育
- 第2分科会：学校や市民と連携したESDの推進
- 第3分科会：地域の文化・文化遺産の継承 未来遺産運動
- 第4分科会：防災・減災教育 被災地から学ぶ運動

特に京都ユネスコ協会は、第2分科会で「子どもの心が動くSDGs協働学習～同志社小学校との2年間のあゆみ～」と題し、実践報告を行いました。

発表者は、京都ユネスコ協会常任理事：江木恵理子 同志社小学校理科教諭：川崎公美子の2名でした。



尚、京都ユネスコ協会からは9名が参加しました。

第61回 京都ユネスコ協会「自然観察展」

事務局



昨年に引き続き自然観察展を、入場時に手指消毒やマスクの着用等のご協力をいただくなどコロナの感染拡大防止策を取りながら実施しました。

会場は前回と同じ元山王小学校体育館ですが、今年も体育館を全面使用してゆとりを取って展示しました。

小学校34校、中学校9校、小中一貫校2校、合計45校行からの応募が

ありました。作品は、小学生182点、中学生56点、計238点が集まりました。今年も混雑回避の為に一校の応募作品を最大7点に制限（コロナ禍前は10点）しましたが、応募校は前回とほぼ同じで、応募作品数は30点ほど増えました。

部門別では、生物85点、物理28点、化学63点、地学24点、SDGs38点で今年も生物部門と化学部門が多い傾向でした。SDGs部門以外の作品にも、身の回りの事柄から地球環境の変容に目を向けたテーマの作品が多数見受けられました。

10月27日に会員の他に京都外国語大学の学生やシルバー人材センターの応援を得て、会場設営をしました。京都府私立小学校連合会の理科部の先生方に作品受付のお手伝い頂きました。

作品は、各自がテーマを見つけたもので、根気よく時間をかけて観察したり、いろいろ試しながら研究を続けりした様子うかがえるものでした。

10月28日に京都市青少年科学センター専門主事の4名の先生などに作品の審査をしていただきました。一つ一つ丁寧に見ていただき、小学生の作品17点と中学生の作品15点が優秀作品として選ばれました。

10月29日、30日に全作品を展示しました。2日間で出品者や家族親族、学校関係者や一般の方等、523名の参観者がありました。

人が集まる表彰式はコロナ感染防止の観点から今年も中止し、表彰状と入賞記念品は協会常任理事が入賞者のある学校に出向き12月2日までにお届けしました。

展示会には寺子屋募金箱を置き、2日間で8,732円の募金をいただきました。全額、日本ユネスコ協会連盟に寄贈します。

江木恵瓊子

9月21日は国際連合の定められた記念日：国際平和デーです。ニューヨークの国連本部では日本国連協会から贈られた釣り鐘が鳴らされ、世界平和を祈ります。

今年、この日は水曜日に当たります。同志社小学校と京都文教短期大学付属小学校では、水曜日に礼拝を行っています。京都ユネスコ協会は、「SDG s 協働学習として、是非にこの日に平和を祈る取り組みをして欲しい。」と情報提供をしました。

結果、同志社小・京都文教付小の有志は、SDG s 16（平和と公正）とSDG s 17（パートナーシップ）に向き合い、平和を祈る礼拝と集いを計画し、校内に広がる活動を繰り広げました。

同志社小では宗教委員の子ども達が！

京都文教付小ではボランティア隊の子ども達が！ がんばりました。



同志社小では、朝の礼拝で宗教の先生から「国際平和デー」のお話を聞き、世界平和を祈りました。それを受けて、昼休みには、5・6年生有志が中庭のチャペルコートに集い、国連旗を背にして、各自の考える平和を読み上げ、チャペルの鐘を鳴らしました。終わりには、宗教の先生のウクレレに合わせ歌い、楽しく集う子ども達でした。低学年も沢山参加してくれました。校内には各学年の平和のメッセージが張り巡らされていました。

また、この日の集いには日本国際連

合協会京都本部からは国連旗持参での参加があり、京都ユネスコ協会は「つなげよう平和の心」の登り旗を持って参加してきました。



京都文教付小では、ボランティア隊の子どもたちが、全校児童に「世界平和を祈って、世界の国旗を描こう！」と呼びかけました。みんなが描いた国旗をつなげ、9月21日の礼拝で披露し、世界平和を祈り、四弘誓願を唱和し黙祷しました。

校長先生は、四弘誓願の第1句「衆生無辺誓願度」とは、「あらゆる生きとし生けるもの、いのちあるもの全てを救う」という意味であると、お話しされ「自分・周りの人・世界の人々みんなの平和を願うことに通ずる」とまとめて下さいました。



「世界平和」を自分事として捉え、パートナーシップで自分に出来ることをする子ども達の姿を見ることが出来ました。

「京都ユネスコ日本語教室の1周年を迎えて」

西川昭寛

昨年9月から日本語教室を開く準備をしていたところ、おさまっていたコロナ禍が再び勢いを増したことからやむなく一旦開講を延期し、3か月後の12月11日にやっと第一回の教室を開くことができました。教室は第二・第四土曜日の月二回で、受講料は毎回100円にしています。最初の受講生はブラジルの青年で、滋賀県から京都に移ってきて新しい仕事に就いたのだが、言葉の問題で仕事に支障があることから仕事で使える日本語の学習がしたいとのことでした。その後もインドネシアの社会人、シンガポールの社会人、中国の留学生、スイスのインターンシップの女性などがあり毎回2-3名の受講生があります。他方、学習支援者（日本語の先生）は全員ボランティアの素人集団で男性2名、女性3名で構成されています。

さて、外国人の就労者を増やす国の施策にあって多文化共生は喫緊の課題となっていて、日本語教育はその中で最も重要なものとしてその活動が望まれています。そもそも日本での就労の条件として本国で日本語教育を受けた者となっていますが、現実はその基準が守られていません。日本での日本語教育は有資格者による日本語学校が一番いいのですが、極端に受講料が高く外国人就労者が通えるものではありません。従ってボランティアによる安い日本語教室が外国人就労者の受け皿となっているのが現状です。1年間の経験を通して浮かび上がってきた私たちの教室が抱える問題は以下のような事柄です；

- 1) 学習支援者に日本語指導の知識が無いこと
- 2) 受講生が毎回異なるので準備が難しいこと
- 3) 受講生の日本語レベルが異なるのでその対応が難しいこと
- 4) 受講生が少ないことなどです。

問題点1)・2)・3)の解決について、私たちは独自の指導法を検討しました。検討の結果「多文化共生」が相互理解であることから、日本語を一方向的に教えるだけではなく日本語を教えながら受講者の文化を学ぶ教室にすることでした。ひとつの日本語のフレーズからブラジルの文化、シンガポールの文化、中国の文化、スイスの文化が学べる教室です。この方法で日本語を勉強するのは時間がかかりますが、私たちは教えながら学び、学びながら教える姿勢こそが本当の「多文化共生」につながると考えています。問題点の4)については生徒募集の動画の作成が急務だと考えていまして、その財源として京都市国際交流協会の補助金に応募し、今回無事に補助金の支給が確定しました。学習指導員一同は来年も引き続き努力する次第でございますので、皆様のご支援をお願いいたします。

花背のチマキザサ

浅井俊子

京都市左京区花背地域の小中学生で結成された Team Tell Hanase は、絶滅の危機に瀕している祇園祭のちまきに長年利用されてきた、特産品のチマキザサを何とかしたいという思いを掲げて活動しています。

花背のチマキザサは、香りの強さと発色の良さ、葉の裏の毛が少ないという理由から、祇園祭の厄除け粽や京料理など多様な用途で長年に渡って用いられてきました。このようなチマキザサの利用は農山村における天然資源を有効利用した生業の一つの事例です。またこの生業は京都の伝統文化を支えてきました。

しかし、2004年から2007年にかけて笹の花が一斉開花し、その影響で笹の枯死が発生しました。そこに追い打ちをかけるように、鹿の食害によって新芽が食べられ自然下での再生が困難な状況に陥りました。さらに花背地域は高齢化が進んでおり、チマキザサに携わる人手の不足が深刻化しています。

そこで、Team Tell Hanase は花背地域の人たちに粽の作り方を教わり、自分たちで作った粽を販売することで保全活動につなげる活動を行っています。また、チマキザサを紹介する広報誌の作成を通じた広報活動を行ったり、粽作りを体験することができるイベントやセミナーでの発表でチマキザサの現状を知ってもらう活動も行っています。

また、活動を通して Kyoto アントプレナーチャレンジ・アントプレナー大賞、ボランティアスピリットアワード・Spirit of Community 奨励賞、第19回京都環境賞・奨励賞を受賞しました。

新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされていた、ユネスコ無形文化遺産に指定されている祇園祭においては、大垣書店本店の一階のスペースをお借りして広報活動を行いました。チマキザサ再生委員会の藤井優三様、京都大学地球環境学賞名涼先生のご協力のもと、パネルと動画を用いて広報活動を行うことで、大垣書店を訪れたお客様に、花背のチマキザサが抱える課題を知っていただくことが



できました。今回の取り組みにおいては、課題を知ってもらうだけでなく、花背のチマキザサで作られた笹茶の茶葉を配布することで、花背のチマキザサの良さを知ってもらおうという取り組みを初めて実施しました。

祇園祭の期間の活動に関して、活動内容が京都新聞に掲載され、京都市内の高校などから取材のオファーを頂き、さらなる活動への一歩となりました。

「ひと・町交流会」(河原町正面)で開講している「ユネスコ英語教室」の受講生の大半は団塊の世代です。その受講生の一人、Kさんは9月に内臓の一部を摘出する手術を名古屋で受けられ、一か月余り入院されました。手術の成否、術後の経過、精神的な安定を気遣う受講生仲間と慣れないラインのやり取りが続きました。術後、精神的に不安定な状態が続いていましたが、受講生の暖かい励ましの言葉や癒しのスタンプなどを送信して貰ったお陰で精神的な安定を徐々に取り戻したそうです。そして仲間の思い遣りや強い絆の有難さを痛感されたそうです。この英語教室の受講生の出席率が高いのは、レッスンの内容よりこの絆のお陰かもしれません。

事務局で開講しております社会人対象の英語教室に11月からお一人新しく入られました。受講生はわずか3名ですが、皆さんが積極的でいろいろな質問を投げかけて下さり、活気ある講座となっております。

中学生対象の英語教室は相変わらず1名のままで、遠く城陽から1時間位かけて来られています。最近中学1年生用教科書(光村図書)の中で、**atmosphere**(雰囲気、大気)という単語が目にとまりました。高校レベルと思われる単語が中学1年生の英語に出てくることに驚きました。

世界文化遺産

賀茂御祖神社(下鴨神社)

宮司 新木直人

〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町59

TEL(075)781-0010

<http://www.shimogamo-jinja.or.jp>

名刺交遊録

2023年 新春

世界文化遺産

賀茂別雷神社（上賀茂神社）

宮 司 田 中 安 比 呂

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 339

TEL (075)781-0011

<http://www.kamigamojinjia.jp>

韓 昌 祐

代表取締役会長

株式会社マルハン



パチンコ、銀行、ゴルフ、フード

東京本社/東京都千代田区丸の内 1-11-1

パシフィックセンチュリープレイス丸の内 28 階〒100-6228

TEL. 03 (5221) 7777 (代) FAX. 03 (5221) 7186

京都本社/京都市上京区出町今出川上る青龍町

231 番地 〒602-0822

TEL. 075 (252) 0011 (代) FAX. 075 (252) 0014

公益財団法人国立京都国際会館

館長 内 田 俊 一

〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池

TEL(075)705-1205 FAX(075)705-1223

品質本位の茶づくり

宇治 丸久小山園

株式会社 丸久小山園 代表取締役 小山元也

〒611-0042 宇治市小倉町寺内 86 TEL 0774-21-3151

Au rendez-vous desartistes

ランデヴー ギャラリー&カフェ

輸入卸売業 絵画展 講演会企画 ギャラリー 文化教室

株式会社 アークコーポレーション

代表取締役 山 中 満 子

〒602-8158 京都市上京区下立売通智恵光院西入

TEL (075)821-7200 FAX (775)821-6464

E-mail:infoark@kk-srk.jp

宇治茶 福寿園

取締役社長 福井 正興

京都府木津川市山城町上狛東作り道11
TEL:0774-86-3901 fukujuen.com



京都ユネスコ協会 常任理事

長 野 博

小 林 祥 造 Shozo Kobayashi

〒602-8228

京都市上京区猪熊通元誓願寺南入ル 473

tel 075-441-3317 fax 075-441-3389

堀川今出川西陣織会館より南へ徒歩3分

京都ユネスコ協会監事

瑞宝双光章叙勲

全国日本学士会員

法務大臣表彰受章

立命館大学校友会名誉幹事

菊桜会員平安神宮社務所

京都府スポーツ賞受賞

平安講社特別有効章受章

京都ユネスコ協会 事務局長

加 藤 功 治

名刺交遊録

2023年 新春

在日本大韓民国民団京都府地方本部常任顧問
三越土地株式会社 代表取締役

王 清 一

〒604-8483 京都市中京区西ノ京南上合町38
TEL 075-802-2331 FAX 075-802-2335

京都ユネスコ協会名誉会長
在京都メキシコ合衆国名誉領事
在京都ニカラグア共和国名誉総領事
京都ラテンアメリカ文化協会会長
京都スペイン文化協会会長

京都外国語大学 最高顧問

森 田 嘉 一

615-8558

京都市右京区西院笠目町6番地

武田病院グループ 副理事長
医療法人財団康生会 武田病院 名誉院長

武田道子



～心がかよう、心が安らぐ、環境づくり～
武田病院グループ



京都ユネスコ協会会長
一燈園燈影学園名誉学園長

一燈園香倉院 館長 相 大 二 郎

京都市山科区四ノ宮柳山町8 電話 075-595-2990 携帯 090-3466-6973

今後の活動予定

1月29日	新年初顔合わせ会 講演会 レストランキエフ
3月	SDGs活動表彰 同志社小学校
4月1日、2日	芸術展 堀川御池ギャラリー
4月	理事会 事務局
5月	総会 懇親会
5月	出前授業 同志社小学校
9月9日	ユネスコ運動全国大会 山梨県富士吉田市
10月	自然観察展 元山王小学校体育館
10月	近畿ブロックユネスコ活動研究会 奈良 飛鳥橿原

英語教室 毎月 第一第三土曜日 事務局において
毎週 金曜日 ひと町 交流館

日本語教室 毎月 第二第四土曜日 事務局において



KYOTO UNESCO ASSOCIATION
京都ユネスコ協会

〒601-8004 京都市南区東九条東山王町27 元京都市立山王小学校内
TEL/FAX 075-632-9925 E-mail kyoto@unesco.or.jp
(平日 13時30分~16時) URL <https://kyoto-unesco.jp/>